

京都新聞

「広島から大量発注」もしや… 滋賀・守山の企業はギリギリG7に間に合わせた

2023年6月27日 6:00



折り鶴のレプリカ（右）と、広島サミットで収納ポーチに選ばれた「ジュエリーふくさ」





G7 広島サミットで自社製品が使われた喜びを語る清原さん（守山市古高町・清原）

5月の先進7カ国首脳会議（G7広島サミット）で各国首脳らに配られた折り鶴のレプリカ（複製品）の収納ポーチに、滋賀県守山市のふくさメーカーの製品が採用された。ただ、同社にレプリカ製造元から注文が入ったのは開幕直前で、G7用とも知らされていなかったという。G7に間に合うか。要人の元に平和の象徴が無事に届いた舞台裏には、発注元の“緊急事態”を察した企業担当者のファインプレーがあった。

収納用ポーチを作ったのは守山市古高町の「清原」。滋賀県の伝統産品で、生地的光沢やなめらかさが特徴の「浜ちりめん」を使い、宝石やアクセサリー用の「ジュエリーふくさ」として販売してきた。

一方、レプリカは平和記念公園（広島市）の「原爆の子の像」のモデルになった佐々木禎子さんが残した折り鶴を模したステンレス製。「SADAKO」と名付けられ、広島県の精密金属部品メーカー「カスタム」が製造している。サミットでは記念の刻印を施した66個を準備したという。

「レプリカの配布が正式に決まったのは開幕直前の13日でした」。カスタムの池田真一上席課長はこう振り返る。6日後の19日にサミット開幕を控える一方、各国首脳らに渡すのに通常とは異なるパッケージも必要だ。日本らしさや上品さを表現するケースを探す中で、目にとまったのが清原の「ジュエリーふくさ」だった。だが、「内容を公開できずG7に使うとは清原に話していなかった」と明かす。

事情を知らない清原側がオンライン発注を確認したのは週明けの15日で、開幕は既に4日後に迫っていた。清原の清原みどりさん（49）は「当時の在庫は20個もなかったと思う」と話す。しかし、電話口で「3日後にほしい」という必死な説明を耳にし、清原さんは「広島企業の大量発注でG7に関係があるのでは。相手は“緊急事態”だ」と察した。

勘を働かせた清原は、期待に応えようと急ぎょ、特別対応の増産を始めた。現地の渋滞に伴う宅配便の遅れも考慮して、当初の予定より一日早い16日には広島へ向けて発送したという。

カスタムの池田上席課長は「どうしても間に合わせる必要があるミッションだったので助かった。物づくり会社の底力を感じた」と感謝する。レプリカは今後、ローマ教皇に届ける予定もあるとしている。

清原さんが経緯を知ったのは数週間後。「首脳らに配られたと聞き驚いた」と振り返る。「不安定な世界情勢の中で、平和を伝えるまたとない重要な場面にこの商品が選ばれた。結果として製品を世界に届けられてうれしい。作り続けてきてよかった」



(C) 京都新聞社 無断複製・転載を禁じます